

令和6年度 第2回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日時：令和6年10月23日（水）15：00～16：30

場所：帯広市役所10階 第6会議室

■ 出席委員

三宅 委員（座長）、大庭 委員、外山 委員、山本 委員、秋野 委員、丸山 委員、
寺嶋 委員（副座長）、長沢 委員

■ オブザーバー

音更町、鹿追町、新得町、中札内村、更別村、幕別町、池田町、足寄町、浦幌町
十勝総合振興局、十勝町村会

作業部会等（医療・福祉作業部会、教育作業部会、産業振興・地産地消作業部会、
環境作業部会、企画作業部会、人材育成作業部会、帯広市道路維持課）

■ 事務局

帯広市（政策推進部企画室企画課）

■ 会議次第

1 開会

2 議事

（1）意見交換の進め方について（資料1）

（2）第4期共生ビジョンに係る意見交換（資料2，3）

3 その他

4 閉会

■ 要旨

1 開会

- 委員 12 名中 7 名が出席し、過半数に達していることから、設置要綱第 6 条第 2 項の規定により会議が成立していることを報告（最終的に 12 名中 8 名の出席）
- 会議資料の確認

2 議事

【座長】

はじめに、議事（1）の「意見交換の進め方について」を議題とする。事務局より説明をお願いする。

【事務局】

資料 1 「十勝定住自立圏の進捗と共生ビジョン懇談会における議論の視点」をご覧ください。左側は、これまでの進捗と今後の予定を記載しており、前回のビジョン懇談会では、現ビジョンの年度改訂の確認と、第 4 期共生ビジョン骨子（案）について意見交換を行った。本日の第 2 回共生ビジョン懇談会では、第 4 期共生ビジョン原案について、主に現ビジョンからの変更点に関する意見交換を行う。そして今後、12 月に全市町村においてパブリックコメントを実施し、1 月から 2 月にかけて書面で開催予定の第 3 回ビジョン懇談会の中で、共生ビジョンの最終案を協議いただく予定である。

右側の議論の進め方をご覧ください。まず、事務局から資料 2 「第 4 期共生ビジョン原案」と資料 3 「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」について一括して説明を行う。その後、前回と同様に、全体を 3 つのグループに分けて、ご質問・ご意見をいただく。

3 つの分野は、前回同様、医療・福祉と教育、産業振興・地産地消と環境、企画・防災・人材等、に分けている。

意見交換の流れは、まず、資料 3 にまとめている、前回の懇談会で委員の皆さまからいただいた意見等に対する考え方について質疑応答を行う。その後、資料 2 の原案についての質疑応答を行う。この 2 回の質疑が終わったら、次の 2 つ目の分野の意見交換に移る。3 つの分野が終わったら、最後に全体を通して、ご質問・ご意見を伺う流れで進めていく。

なお、12 月に圏域全体においてパブリックコメントを実施するため、原案についての意見を協議する機会は今回限りとなる。今回いただくご意見の中で、新たな取り組みのご提案については、パブリックコメントまでに整理を行う時間の関係上、参考意見とさせていただきます、来年度以降の改定も視野に入れ、各作業部会等において協議を行なってまいりたいと考えている。

【座長】

ただ今、事務局から進め方の説明があったとおり、事務局から一括して説明後、全体を3つに分けて意見交換を行うこととする。

各委員には、前回委員から出された意見への対応の考え方に対するご質問、ご意見や、原案に関する修正意見などをお願いしたい。なお、パブリックコメント募集の関係で、新規のご提案については参考意見として取り扱うことを、予めご了承ください。ただ今の説明について、ご質問等はあるか。

(質問、意見等なし)

【座長】

質問等がないため、事務局の説明のとおり進めていくこととする。

【座長】

それでは、議事(2)の「第4期共生ビジョンに係る意見交換」を議題とする。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

まず、資料2「第4期共生ビジョン原案」をご覧ください。表紙の写真については、今後最終案までに選定する。次のページにある目次をご覧ください。現ビジョンと同様、4章構成としている。巻末の附属資料については、最終案までに整理する。

1ページの「第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって」について、1ページでは、令和2年3月に策定した第3期共生ビジョンの取組経過を追加したほか、2ページでは計画期間を令和7年度から令和11年度までの5年間として更新している。

3ページ以降の「第2章 圏域の概況」について説明する。3ページから9ページにわたる、十勝及び各市町村の概況について、紹介内容を修正している。なお、各市町村の人口と面積に関しては、最終案までに公表される数値に更新する予定である。

10ページ以降「2 人口」については時点更新を行っている。

14ページの表「十勝圏の将来推計人口」および「北海道振興局別人口増減率」について、国立社会保障・人口問題研究所から昨年、「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」が示されたことから、更新している。

15 ページ以降の各分野の概況については、数値等の更新のほか、背景やこれまでの取り組み、課題などの整理などを行っている。主要な変更箇所について、説明する。

15 ページの「(1) 医療」について、病院群輪番制による二次救急医療体制の支援体制が構築されたことから、支援の一つの例示として二次救急医療体制への支援を追記している。

20 ページの「(4) 産業振興 ①農業」について、有害鳥獣対策において懸念される鳥獣被害対策実施隊の担い手不足について、課題として追記した。

28 ページの「⑦道路」について、道東道が延伸し釧路圏の中心までつながることや、除排雪について、担い手不足の懸念から、今後に向けた検討の必要性を追記している。

なお、前回の共生ビジョン懇談会で説明した除雪作業部会については、各市町村に参加意向の確認を行い、賛同をいただいたところである。

29 ページの「⑧空港」については、国際線の4年ぶりの再開について追記している。

30 ページの「⑨港湾」については、コンテナ船の定期航路の新設について追記している。同ページの「⑩航空宇宙産業」については、国による民間主導の宇宙開発の促進の動きの現状と、大樹町の射場整備の動きを追記している。

31 ページの「(5) 環境」については、脱炭素社会の実現に向けた背景や、これまでの課題に加え、森林等の適正な管理の必要性について追記している。

34 ページの「(1) 地域公共交通」については、近年の利用者数についての記載を更新している。

35 ページの「(2) 地産地消」、36 ページの「(3) 移住・交流」については、取り組み事例を整理している。

38 ページの「第3章 定住自立圏の形成により目指す圏域の将来像」について説明する。

1 段落目で、社会的背景など、十勝定住自立圏の形成までの経緯について記載し、2 段落目で、これまで3期にわたる取り組みにより、圏域の人口推移が堅調なことなどから、圏域の活力を徐々に高めていると総括している。

3 段落目で、今後加速が見込まれる人口減少に対応するため、地域の稼ぐ力と、将来的な人手不足への対策等、中長期的な視点から課題を捉え、地域の資源を活用しながら、新しい仕事の創出や、安心できる生活環境の維持等に圏域をあげて取り組んでいく必要性を記載している。

そして4 段落目で、共通した歴史を背景とした、19 市町村の結びつきの強さなどを活かしながら、人口減少への対応を進め、更なる発展と魅力向上を図り、様々な分野において連携することで、誰もが安全・安心して豊かにくらす社会を築き、住みた

い・住み続けたいと思われる十勝を目指すことを掲げている。

同ページの下部にある「圏域人口の将来展望」については、各市町村における新たな人口ビジョンの策定等を勘案して、共生ビジョン策定までに各市町村の数値を合算し、掲載する予定である。今後、各町村から最新の人口ビジョンのデータを集約し、更新したいと考えている。

39 ページ以降の「第4章 協定に基づき推進する具体的取組」について説明する。骨子を踏まえて取組項目等を更新しており、主な修正箇所を説明する。

39 ページの「取組項目一覧」については、「1（5）環境」の取組項目の名称を「低炭素」から「脱炭素」へ更新している。

40 ページの「1（1）①地域医療体制等の確保」については、病院群輪番制による二次救急医療体制の支援体制が構築されたことから、取組概要に追記している。

41 ページの「②地域医療体制の充実」については、二次救急医療体制について、令和5年度に支援の仕組みの構築に至ったことから、文言の整理を行っている。

44 ページの「③高齢者の生活支援体制の構築」については、介護士不足だけでなく、職場環境や業務の改善も重要な要素であることから、課題の例示として追記している。

52 ページの「⑤広域観光の推進」について、インバウンド（訪日外国人旅行者）の誘客に関する項目を取組概要に追加し、帯広市と関係町村の役割も整理している。

54 ページの「⑦鳥獣害防止対策の推進」について、鳥獣被害対策実施隊の体制等の検討を取組概要に追加し、協定の内容に追記したほか、取組概要、効果、役割を整理している。

55 ページの「（5）環境」について、ノーカーデーの取り組みに関して委員からの意見があったことから、取組概要に追記している。また、「低炭素社会」を「脱炭素社会」に修正するとともに、脱炭素の取り組みとして森林等の保全・都市緑化の推進について取組概要に追加し、役割を整理している。

57 ページの「（1）地域公共交通」について、ビジョン懇談会での意見を踏まえ、運転手確保策について検討する旨を取組概要に明記し、役割分担の表現も修正している。

61 ページの「4 基本目標兼成果指標」については、一部がデータ収集等により調整中となっているが、現状値を令和5年度、目標値を令和11年度として更新している。

また、数値以外の変更点としては、「1（5）環境」の基本目標兼成果指標について、これまでの「広域連携啓発事業参加者数」を、第4期ビジョンでは「環境交流会参加者数」に変更している。表現をわかりやすいように名称を変更しており、これま

でと内容は変わらないものである。

62 ページの「2（1）地域公共交通」の基本目標兼成果指標について、これまで「十勝管内バス利用者数」を目標・指標としていたが、第4期ビジョンでは「住民等の広域交通の利用者数」に変更している。取り組む内容に変わりはないが、市町村の連携した取り組みを図る指標として、取り組みの効果を分かりやすく表す指標に変更したものである。

なお、調整中の箇所については、パブリックコメントまでに確定したいと考えている。

以上が、資料2「第4期共生ビジョン原案」の説明である。

続いて、資料3「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」について説明する。こちらは前回いただいた意見と、対応の考え方を整理したものである。

No. 1 は、地域医療体制の充実について、昨年度新設された大谷短期大学看護学科との連携に関するご質問があったもの。すでに令和5年度、6年度に、圏域内にある他の看護師養成学校と連携し、看護師を目指す学生へのPRを実施しており、今後も継続していく。

No. 2 は、部活動の地域移行についての要望であるが、各学校や自治体での個別事情に則した対応が必要となることから、定住自立圏での取り組みは難しいと考え、引き続き個別に、市町村間等で意見交換を進めていくこととする。

No. 3 は、広域観光の推進について、国立公園を活かした観光とインバウンドの取り込みに関する提案があったもの。今回よりインバウンドの誘客の取り組みを定住自立圏に位置づけ、国立公園を活用した観光振興とともに取り組んでいくこととした。

No. 4 は、農業振興と担い手の育成に関する提言があったもの。今後も、現在行っている研修会において、地域の担い手の育成に引き続き取り組んでいく。

No. 5 は、地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の構築について、ノーカーデーの取り組みを定住に位置づける提案があったもの。ノーカーデーの取り組みを取組概要に記載し、自治体職員の取り組みをとおして、住民に対して啓発していくこととした。

No. 6 は、地域公共交通の維持確保と利用促進について、ドライバー不足を課題として盛り込むべきとの提言があったことから、課題として取組概要に追記した。

No. 7 は、移住・交流について、移住のPRに人手不足などの業界の情報も含め、仕事の情報を発信していく必要があるとの提言があったもの。帯広市の取り組みにはなるが、すでに、十勝へのUIJターンなどを対象に、人材マッチングシステムを運営し、十勝管内の事業者を紹介していることから、いただいた意見を参考にし、さらなる情報発信を検討していくこととする。

No. 8 は、人材不足が常態化している福祉職について、移住準備金の検討に関する提案があったが、中心市との1対1の協定に基づく定住自立圏の取り組みとしては、

難しいものと考えている。介護士不足の課題に関しては、引き続き研究会等により介護士定着に取り組んでいく。

以上が、資料3「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」の説明である。

【座長】

早速、意見交換を行う。はじめに、医療・福祉、教育分野について、意見交換を行う。まず、資料3「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」について、どなたからでも結構なので、ご発言をお願いしたい。

(質問・意見なし)

【座長】

なければ、次に、資料2「第4期共生ビジョン（原案）」について、ご発言をお願いしたい。

【委員】

44 ページの高齢者の広域ネットワークシステムについて、高齢者で認知症の行方不明者がいた際に、事業所に FAX が届いていることがある。今の時代、FAX 文化から脱却しつつあるが、他の手法に切り替える予定はあるか。

【座長】

44 ページ「③高齢者の生活支援体制の構築」のうち、高齢者の見守り事業の充実について、情報の周知に FAX が用いられており、周知の方法に係る検討に向けた意見であった。事務局より説明をお願いしたい。

【医療・福祉部会】

現在、情報提供手段のひとつとして FAX を使用しているが、他にメールでの連絡体制も整えている。行方不明の事例があった場合は主に電話、メール、FAX で情報共有を図っているところである。

【座長】

FAX 以外にもメール等を活用した形で情報共有をしているとの説明であったが、よろしいか。

【委員】

メールは登録をしていただくような形か。

【医療・福祉部会】

おっしゃる通り、事前に登録していただくものである。

【座長】

40 ページの「①地域医療体制等の確保」に関する取り組みとして、「救命救急センター等の維持・充実」に関する説明があった。二次救急医療体制の支援体制が整ったとのことであったが、再度説明をお願いしたい。

【事務局】

本日医療担当が不在のため、事務局より説明する。病院群輪番制による二次救急については、これまで帯広市で支援を行っていたが、今年度より 19 市町村で支援を行う体制が整ったことから、今回変更するものである。

【座長】

現ビジョンのうちに体制が整えられたことで記載を変更したとのことと理解した。他になければ、以上で、医療・福祉、教育分野に関する意見交換を終わりとする。次に、産業振興・地産地消、環境分野について、意見交換を行う。

はじめに、資料3「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」について、ご発言をお願いする。

【委員】

農業に関して言えば、19 市町村でそれぞれ形態も機能も違う。以前は十勝の中央部が温暖、周辺部は冷涼地域であったが、現在は十勝の中央部が高温、周辺部が温暖地域になって来ていると思う。そんな中で画一的なことは難しいと思うが、各市町村で互いに横のつながりを持って、色々なチャンネルの中で情報提供をしていただきたい。

例えば営農技術情報等の様々な情報を発信されているので、それらを有効に使っていただくなど、情報発信が遅いと感じる部分もあるため、作業を先取りする形で情報発信をお願いしたい。

【座長】

十勝の特徴も変化し、なかなか画一的な対応が難しいのはおっしゃる通りかと思う。情報発信等についてもよりスムーズかつ効果的にというお話であった。情報提供をよりスムーズに早く発信する方法を検討して欲しいというご意見でよろしいか。

【委員】

畜産の課題等はみんな考えていることが同じであり、畜産の情報はスムーズに流れるが、畑作は一人一人の目標が違い、なかなかそこが画一的には難しいと思うが、少しでも皆さんに役立つ情報が発信されればと思う。

【座長】

農業に関する情報提供について、作業部会より考えがあれば伺う。

【産業振興・地産地消作業部会】

おっしゃるように、昨今の異常気象の対応は非常に難しいところがある。帯広市が試験圃場を持っているので、そこでの試験研究結果を毎年、営農技術情報の結果報告書ということで、帯広市からホームページで広く周知しているところである。ただ、十勝の農業の底上げという部分で、各市町村が連携しながら効果的な情報発信を行わなければならないと思っている。タイムリーなお話もあり、また、一年ごとの作付けになるため、時期を逸しないような、チャレンジングな取り組みも含めて、いろいろな情報を工夫しながら発信していきたいと考えている。

【座長】

いただいた意見は資料3のNo.4のうち、意見に対する考え方の“合同研修会を開催するなど”にお含みいただける内容かと思う。他にご意見はあるか。

他になければ、次に、資料2「第4期共生ビジョン（原案）」について、ご発言をお願いします。

【委員】

ビジョンと直接の関係はないが、お聞きしたい。今回の次期ビジョンはゼロカーボンの取り組みを行っていくところで、19市町村で取り組む中、帯広市の推進計画しか確認していないが、2030年の削減目標において家庭の削減量が一番高くなっている。他町村の計画との整合を取っているものなのか。この削減目標とした理由はあるか。

【座長】

2030年に向けたゼロカーボンの取り組みの中で、二酸化炭素排出の削減目標のうち家庭部門の割合が一番多い理由について、作業部会より説明をお願いしたい。

【環境作業部会】

2030年の削減目標において、家庭部門が高い理由についての質問であるが、帯広市では2030年までに48%の削減を目標としている。これは北海道の計画をもとに設定

したものであり、北海道全体で家庭部門の削減目標が高く設定されていることから、帯広市においても同様に家庭部門の削減目標を高く設定している。また、帯広市における温室効果ガス排出量は、家庭部門が一番排出割合を占めていることから、大きく削減効果を上げなければ48%の削減は難しいという背景もある。

他町村の計画については、つぶさに中身を検証しておらず、把握していない状態である。ただ、現状として19市町村すべてでゼロカーボンシティを宣言表明しているが、計画を策定していない町村もある。今後すべての町村で計画を策定し、公表された段階で町村の傾向がわかるものと考えている。

【座長】

帯広市の部分については家庭部門の温室効果ガス排出量が多いことが背景であるとのことであった。帯広市の家庭部門における排出量が多いというのは独自に推計したとの認識でよろしいか。

【環境作業部会】

国から都道府県及び市町村の排出量の推計手法が示されており、それを元に推計している。

【座長】

国が示す手法に基づいて推計したところ家庭部門の温室効果ガスの排出量が多く、削減の努力をしていくとのことであったが、よろしいか。

【委員】

家庭となると企業とは違って個々の取り組みになり、それが一番高い削減率になるとハードルが高いと思う。省エネや再エネの導入もうたっているが、家計負担はかなり重く、企業と全然違うところだと思う。お金をかけなくても出来る取り組みもあるが、家計負担と取り組みを含めて、近隣の自治体で差がないような配慮をしながら進めていただきたい。

加えてもう一点、成果指標について、言葉は変えているがずっと同じ指標を使っている。環境交流会参加者数について、消費者協会も展示を出す形で参加しているが、実際の内容を含めて参加者が頭打ちの印象を持っている。今更指標を変えることはできないかもしれないが、環境交流会のあり方自体は見直すべきと思う。

【座長】

指標にも関わる環境交流会について、一般市民を含めた形での情報共有の場にもなっていると思うが、内容や進め方等についての意見であった。今回のビジョンに反映

するというより宿題をいただいたようなご意見であったと思う。作業部会より説明をお願いしたい。

【環境作業部会】

環境交流会については、コロナ禍で住民同士の集まる場が制限され、交流会のようなイベントにはなかなか人が集まらない状況となっていたが、現在はコロナも明け、行動制限も解かれている状況にある。今いただいたご意見もあるが、帯広市としても11月の開催に向けて体験型の展示を増やすなど、多くの方に集まっていただけるイベントとなるよう工夫をしているところであり、そういった点も一つの期待感として見ていただきたい。

【座長】

目標も令和5年度の現状値から令和11年度に向けて増加する目標となっている。ご意見をいただいた形で、内容をよりよくしていく事が必要であり、必然的によくなっていくものと思うが、作業部会でご検討いただければと思う。その他にご意見はあるか。

【座長】

53ページの農業に関する取り組みのうち、合同研修会はどのようなものを想定しているか、考えをお聞きしたい。

【産業振興・地産地消作業部会】

十勝全域での研修会ということで、昨年度も実施したが、昨今の異常気象と肥料高騰もあり、「土づくり」をテーマとして研修会を開催している。十勝農試の先生や畜大の先生などを講師とし、コロナ禍もあったため、YouTubeを活用しながらオンラインの受講も併用するなど、広くタイムリーな情報を十勝全域に学んでもらえるように進めている。今年度も1月に「土づくり」をテーマとした研修会を予定しており、今後も農業者からのアンケートを取り、喫緊の課題やニーズを踏まえて効果的な研修に努めてまいりたいと考えている。

【座長】

土づくりはどんな作物の分野にも関係があり、広域を対象とした研修を実施されているということで承知した。

【座長】

他になければ、以上で、産業振興・地産地消、環境分野に関する意見交換を終わり

とする。

次に、その他の分野について、意見交換を行います。はじめに、資料3「共生ビジョン懇談会意見等検討状況一覧」について、ご発言をお願いします。

【委員】

意見を反映いただき感謝申し上げます。しかし、ビジョンに記載されるだけではなかなか変わっていかないものであり、重要なのは取り組みだと思う。この共生ビジョン懇談会のみで終わらせるのではなく、交通では各自治体が集まる会議体もあることから、ビジョンの方針を各部署や担当まで落とし込み、ノーカーデーは住民に対する啓発をいかに効果的にできるかなど、そういう議論を他の所管部署とつなげる形の懇談会・ビジョンにする必要がある。載せたからよいのではなく、これをいかに形づけて実行していくことが重要だと思っており、自治体の皆様と一緒に取り組んでいきたい。

【座長】

今の意見については、資料2の57ページにも関わる部分かと思う。地域公共交通の具体的な取り組みのところで表現が盛り込まれた形になるが、作業部会における今後の検討、他の会議体との連携等について、考えがあればお願いしたい。

【企画作業部会】

お話をいただいたように、今までも定住自立圏のビジョンと他の協議会との方向性を合わせ、交通事業者も含め19市町村と一緒に連携しやってきたと思っている。ただ、昨今は厳しい状況であり、なかなか効果的な取り組みは難しいところもあると思うが、今後もみなさまと議論しながらできることをやっていきたい。

【座長】

バスの運転手確保は難しい部分もあると思うが、必要な公共インフラだと思うので、ぜひ作業部会の方でも連携しながら検討していただきたい。

【座長】

他になれば、次に、資料2「第4期共生ビジョン（原案）」について、ご発言をお願いします。

【座長】

28ページの除排雪について、広域的な問題として検討を進めるというお話であったが、作業部会を立ち上げる形で、市町村間で検討していくという理解でよろしいか。

【道路維持課】

現在、各市町村と情報を共有しながら、アンケート調査などで情報を得ているところである。各自治体においても同じ課題があるため、定住自立圏の作業部会を活用しながら、情報共有や、課題解決に向けた議論をしていきたい。帯広市としても十勝の中心市として先進的に取り組める事を検討したい。

【座長】

他になければ、以上で、その他の分野に関する意見交換を終わりとする。
最後に、全体を通して、ご意見、ご質問などがあれば、ご発言をお願いしたい。

【委員】

成果指標について、R5の現状値とR11の目標値が記載されており、例えば医療の②の部分では、管内に就職した看護師数のR5現状値が45人に対して、R11目標値が437人となっているが、これは5年間の累計か。それであればR5の現状値は過去に遡った5年分として比較するなど、同じ比較でないと目標の判断が難しい。また、福祉については現状値が100%と既に達成しており、R11の目標にも設定しているが、達成しているのであれば違う目標値を設定した方がよいと思う。ただ、あくまで目標のため、達成可能な目標を立てた方がよいと思う。

【座長】

ご意見のとおり目標を測りづらい印象もあるが、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

KPIの表記について、今回は現状値を記載しているが、達成状況については毎年のビジョン懇談会において、単年度ごとに別の表を用いてお示ししている関係上、このようになっている。いただいたご意見をふまえ、よりわかりやすい表記方法を考えて最終案に向けて調整したい。

【医療・福祉作業部会】

福祉の①の指標については、障害のある方が、地域活動支援センターを利用して社会参加をする際に、十勝の資源を市町村にまたいで利用できるということで設定している。現在も利用されており、数は増えてきている。目標については利用している、していないという評価となることから、このような表記となっている。今後も他の町村の事業所との意見交換を踏まえながら、より盛んに利用者が利用しやすい体制を考えていく。

【座長】

何を KPI とするかは難しい部分があり、事業を進めながら、次期の検討の際には意見も踏まえて進めていただきたい。

他になければ、以上で、第4期共生ビジョンに係る意見交換を終わりとする。

事務局においては、本日いただいたご意見等を今後の取り組みに活かしていただくとともに、参考意見としたものについて、関係する作業部会等で協議を進めていただくよう、お願いしたい。

ここで、今回のご意見等を踏まえ、原案を修正する箇所について、事務局から確認をお願いしたい。

【事務局】

今回提示させていただいた原案で、パブリックコメントにかけさせていただきます。

【座長】

それでは、事務局提案のとおり、了承することよろしいか

(異議なし)

【座長】

異議なしと認め、そのように取り扱う。以上で議事を終了する。

3 その他

【座長】

次に、「3 その他」に入る。事務局から、連絡事項等があれば説明をお願いしたい。

【事務局】

12月には圏域住民へのパブリックコメントの実施を予定しており、その意見を踏まえ、最終案を作成する。パブリックコメントの結果と、それを受けて作成した第4期共生ビジョンの最終案については、1月中に開催予定の第3回ビジョン懇談会でお示しする予定である。

その後、協定書の変更について各市町村の議会に図り、3月末に変更協定書を取り交して次期ビジョンの策定となる。

【座長】

ただ今の説明に関して、ご質問等はないか。

(質問無し)

【座長】

別になければ、皆様の方から全体を通じての確認、あるいは何かご質問等あれば、ご発言いただきたい。

(質問無し)

4 閉会

【座長】

以上をもって、本日の会議の日程は全て終了とする。

円滑な会議運営にご協力いただき、感謝する。以上で、第2回定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会する。